

平成 30 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2018

| | |
|----------------------------------|-----------|
| 講座名・職名 Course Title・Job Title | ヨーロッパⅡ・教授 |
| 氏名 Name | 高橋 美恵子 |
| 専門分野 Academic Field | 社会学 |

| | |
|---|----------------------|
| 主たる研究テーマ Principal Research Subject | 多様性社会のワーク・ファミリー・バランス |
| <p>本年度は、研究代表者を務める科研プロジェクト「多様性社会のワーク・ファミリー・バランスに関する研究」に主に携わり、国際比較の視点からみた男女のワーク・ファミリー・バランス（WFB）を研究テーマとして取り組んだ。第1に、研究対象国のスウェーデン、オランダ、ドイツにおいて前年度に実施したウェブアンケート調査ならびにスウェーデンで子育て世代の男女を対象に行ったインタビュー調査で得られた知見を整理した。同プロジェクトで9月にオランダ（アムステルダム）において10名を対象に実施したインタビュー調査の結果を踏まえ、次年度のドイツ調査に向けた準備に着手し、働き方の多様性と家族・ライフスタイルの多様性を包括するWFB社会の実現に向け考察を深めた。スウェーデンにおけるWFB関連施策と当該最新動向については、「スウェーデンにおける仕事と育児の両立支援施策の現状—整備された労働環境と育児休業制度」（『Business Labor Trend』2018.10, pp.27-33）として著した。</p> <p>第2に、研究分担者として参加する「非典型時間帯就労に着目したワーク・ライフ・バランスの国際比較研究」（研究代表者：大石亜希子・千葉大学教授）において、非典型時間帯就労が家族関係や家族のウェルビーイングに及ぼす影響に関する考察を進めた。スウェーデンでの当該分野の取組みと実態を探る目的で、9月にストックホルムで医師と看護師へのインタビュー調査ならびに公的夜間保育部門担当者へのヒヤリング調査を実施した。そこから得られた知見は、「スウェーデンにおける非典型時間帯就労とワーク・ライフ・バランス—子育て環境と医療従事者の実践に着目して」（『IDUN—北欧研究』Vol.23. 2019年3月末刊行）にまとめた。</p> <p>第3に、STINT（スウェーデン研究・高等教育国際協力財団）のSweden-Japan 150 Anniversary Grant にストックホルム大学日本語研究室と本学スウェーデン語研究室との共同プロジェクト“Japanese Studies in Sweden, Swedish Studies in Japan: Collaborative research on limits and possibilities of Area Studies in the 21st Century”（代表：Jaqueline Berndt 教授）が採択され、研究交流を進めた。9月11日にストックホルム大学で開催されたワークショップで研究報告「ワーク・ライフ・バランスの新たな地平—日瑞比較の視点から」を行った。</p> | |